

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

於川山下南海

針に就て決断したり
 ▲行商視察團の組織 會議所の提案
 かする開函は各店員を以て組織し學
 期を待つて深く韓内地に入つ大に經
 する計畫にて會議所よりは之れに同
 員を一人附する等なり
 ▲書記生募集 補修夜學校に於ては
 記生連の第一期の卒業式を了りた
 以て來月一日よりは更に二期生
 集し店員學生に極力盡力する由な
 ▲釜山通信
 ▲水産部長決定 先日赤引網にて
 中なりし水産會議に於ける第一の
 たりし組長選舉は多數を以て龜山
 官組長となれり而して提出され
 題は總て原案速可決し尙三月末日
 て任期満了となる副組長に於ては
 之れを擴張する事に決定したり
 ▲選舉官出資 龜山選舉官は京羅
 岡山山口廣島の二府三縣觀察の
 十七日の連絡船にて出發したるが
 岡山地方に於ける水力電氣軌道市街
 水運等の各事業觀察の目的なりと
 選舉事案したるが其の用向きは清
 舊居留地に關するものなりと云ふ
 ▲會議所役員會 商業會議所は於
 二十七日日本郵米國輸入税引上げ反
 動東上委員預定に就て役員會を開
 るが近日東上せしむべしと
 ▲專管居留地決定 馬津國總領事
 れまで問題たりし專管居留地とな
 し土地を檢分し追函、内山兩氏の
 地を買致する事に決定し既に幾分
 金を提出したれば漸く清國專管居
 も是に至りて確定を見るに至れり
 文
 三連人(下) 大庭
 折から自分の側に風かけた十四
 女、艶々した大きな襟袈裟は、
 と知れた。宇玉だ。
 「特許ッ」
 と許りに學生連の視線は、一赤
 の宇玉君に集中した。

破に昨日代官の倉
 破に昨日代官の倉
 五十金で賤賣入
 ので、與助も其
 同様にした。其
 助に云ふ不都合
 もものではござい
 せん。誠に親孝
 の威心な者。與
 助に云ふを與へ
 したと云ふ武士
 御代官の倉と被
 た曲者に相違さ
 いませぬ。何卒
 助を御免しと願
 ますと申出さる
 けれど、鬼兒
 眞の曲者は我
 真の曲者は我
 相成らんと云ふ
 父の奥女は門は
 日泣いて許り
 の所が正當は
 木に枕に臥さ
 不が別に急ぐ
 でもないから名
 畜産を見物し
 新町へ着く
 山口屋と云ふ
 癖へ泊つた其
 ことでござい
 から。越前と云
 でも上等で下
 ものではな
 座敷に七八人
 の手木桶何
 のが宿屋
 正當さんだ
 ませう。甲イ
 が横になつて
 ひなく……
 のも何かの因縁

和樂園
(電話九〇〇四)

○料理は萬事御
○園内に旅館
○土産の産物
又は宴会等

御待合

京城永樂町
丁目永樂湯

志ちや

金高の分の御
誠に應
御めて
保替す

大 京 城
洗 大 堀
可成
高 運 送

開

賣出披露

當場内何れ
枚通呈す
景品券は速
替可申候

白米拾

高田家
 三七番 米倉町
 手輕に上り
 静にして別荘
 に見晴し京橋
 有之候間集會
 連當に候
 新築
 開業
 二松 目
 電話 三三四五
 本銘に拘はらず十
 便利と圖り迅速御
 買物は一可專に取
 安全に一定の場所
 有之候間集會
 長期間大切に留保
 なきと期す
 町
 機商行質部
 酒名
 一龍
 大場大
 として 自
 至
 の處にても御
 時階上に於て
 景品目
 俵 其外
 明治町
 京

二月一日
同 七日
賣出

錄
一丁目
城勸

表具松
中
村耳
診察 自午前九時至午後五時
每月十五日休
入院
京城番町三
中皇
院主

電話千〇〇三番
 清國領事
 前
 鼻 入院 喉 赤貧者施
 咽 喉 喉 喉
 時 時 時 時
 藥 藥 藥 藥
 院 隨 意
 丁目 電話三七九
 醫學得業士
 中島貞
 二日間
 毎に景品福引券
 に依り景品を御
 換め
 商 場

報

人の一生は重き荷を負ふて
遠き道を行くが如
し坐ぐ可らず

▲金融組合總會 二丁七日度支新財
▲金融組合總會 二丁七日度支新財

五、支店監督に對する各支配人賞
▲武田氏披露宴 新任焼酎所長のオ
少將は三十日安國俱樂部に於て新任

▲金融組合總會 二丁七日度支新財
▲金融組合總會 二丁七日度支新財

けなくも三神の力を以て其足で愈賀野原を云々家へ上り飲食ををしたか其頃なやまを人の手に入るべかりと云ふ居士から勸めて召取られた、段々代官所へ警告として云ふ居士から勸めて召取られた、段々

告長野
福島中將
一會場
一時日
一會費
一申込所
長野

縣人諸君
閣下ノ歡迎を
候間着て御出席
の向へ御勤務上
の町京城ハタル
二月三十日(紀念日)
午後五時
當公園
定日地に会場へ
對縣人會
席貸

料理 洋食 焼き当 辨當 食後 乞ふ 備路號

御用
鐘路
御評判
金五十錢
出前
致も
升

射 至 以 信 二 引 勿

國大使館、代議院等浸水し、益慘狀を極め居れり（廿九日著）

充不能はざるにより、本月初大
國社にては、際州丸、基隆丸、汕
頭丸、失散あり△三書 下巻要員

鐵とは全然其性質を異にし兩者の間に
利害の大衝突を生ずる恐なきを認識し

朝の雨參與宮も參席すべしと尙は同
 午後五時よりは花月にて文武官民五

⑤ 新三税の徴収成績
家屋及び煙草三税の收入算入は八

借入れしが右は本年度に於て日
より貸下げある二千万圓の内より少しく

くには及ぶまいと阿ななるて
らねども成行きに依りては尙
信しんの材料そくあり

つて居ゐる

へば惜さん用心が第一第一

